



よくなる道路……「新産業都市」の指定をうけると、道路は公共投資の増加でゲンと立派になる。原料や製品の輸送、新鮮さが生命の農水産物の輸送も大いに促進される。

九倍、卵四倍等の大幅な需要増加が見込まれます。都市周辺の農業は、加工工場の設置と相まって、果実、畜産物、小さい類等を中心にした、高度の農業に転換することが大いに促進されるわけです。

又、この地域に対して公共投資が大幅に増加されるので、鉄道の複線化、電化が急速に進み、道路網の整備が急ピッチで行なわれます。

その結果、現在本県の農畜産物の大消費地向けの出荷で、一番隘路になっている輸送問題が急速に解決されるわけです。

将来、生果物の貨物専用急行便を出そうとしても、鉄道が単線では限界があります。複線になればそれまでということになります。

このように、農産物の流通が円滑化するので、生産農家の手取り額は急速に上昇するでしょう。

問 なるほど、工業化都市化によって農業にも大いに喜ばしいことが

で発展するよう考えております。新産業都市に指定され、工業化都市化が進んだ場合、農業にどのような影響があらわれるでしょうか。

答 第一に、工業化都市化によって、都市人口が急速に増加するので、農産物需要が大幅に増加します。昭和十五年には熊本七・五倍、牛乳七・五倍、羊乳三・一

あることがわかりました。しかし現在でも農村からは青年が都会へ都会へと流出して、農村の労働力不足が問題になったり、農地が住宅や工場に潰されて、農業がやれなくなるのではないかと不安があります。その点はどのようにか。

答 今でも農村に青年が足りないということが大きな問題ですから、今後それに拍車がかけられるような状態になるのご心配はよくわかります。

昭和四十五年までの農業就業人口推計では、二五%くらい減るのではないかと思えます。だからこれに対応していくためには、農業

においても、大型機械化による省力技術体系を導入することが必要になってきます。

それに必要な事業は、農業構造改善事業を通して、県もうんとおつたいたいと思っています。

次に農地がどんどん潰れて農地が狭くなるのではないかと心配ですが、地域全体では農地が工場や住宅に転用される一方、干拓や山林開発による果樹園造成が行なわれますので、農地林はかえって増加するでしょう。

農家の皆さんでも、新しい変化に対応されてうんと所得を伸ばしていたらよく、計画と準備をお願いしたいと思います。

県民の熱意で指定獲得へ

問 新産業都市の問題は、熊本県にとって実に重要な意義を持つもので、「有明不知火地域」のすぐれた適性、そして素晴らしい未来図があることがわかりました。

またマイナスマ面だろうと思っていた点の心配もなくなりました。この上は、ぜひ指定をうけて本格的開発のスタートを切らなければなりません。

答 そうです。そのため、県では関係市町村はもとより、各界のご協力を得て指定獲得に全力を注いでいます。「有明不知火地域新産業都市指定促進期成会」も二月二十

五日に発足して、関係方面に波状陳情もしています。

この地域がすぐれた条件をもっていることは当局でも認めています。これを押し上げる地元熱意が必要です。

指定を間近にひかえて、各県の動きも激しさをましましました。この地域の開発は、県民所得増大のキー・ポイントになるものと考えられますので、指定獲得のため皆さんのご理解と全面的なご協力を願ってやみません。

(企画室)

・交通機能のうえから九州の中核的な役割

1級国道3号線、57号線(九州横断道路)、2級国道各路線、鹿児島本線、豊肥線、三角線、肥薩線、高森一日ノ影線、有明海、不知火海の大結切、九州縦貫高速自動車道の建設により、強くなる位置的中心性、中核性

地区の特性を活かした総合・関連的な工業開発

3. 工業開発の構想

- ・有明地区：重工業、機械工業を中心
鉄鋼、火力発電、コーラス、ガス化学、アルミニウム、機械工業等
- ・八代地区：重化学工業を中心(用水型、資源立地型)
食料品、紙パルプ、木材化学、電解ソーダ、塩化ビニール、石油精製、石油化学工業等
- ・熊本地区：都市型工業、機械工業を中心、食料品、硝子、建材、紙器、製缶、電気機械、一般機械、金属製品工業等

4. 工業開発の目標

(単位：億円、倍)

区分	昭31		昭33		昭35		昭45		昭55	
	工業出荷額	382	417	501	3,719	7,600	7.4	15.1		
昭45	昭35	昭45	昭55	昭35	昭55	昭35	昭55			
伸率	伸率	伸率	伸率	伸率	伸率	伸率	伸率			

5. 人口および就業人口

(単位：千人、%)

区分	昭35		昭45		昭55	
	総人口	885	1,170	1,440	132	163
就業人口	371	546	664	147	179	405
製造業就業人口	37	99	150	267		

新産業都市としてすぐれた立地条件

1. 地域の現状

- ・範 囲：熊本市中心に30Km圏内………5市20町村
荒尾市、玉名市、熊本市、宇土市、八代市、長洲町、岱明村、横島村、天水町、玉東村、植木町、河内芳野村、北部村、天明村、飽田村、三角町、不知火町、大矢野町、富合村、松橋町、小川町、鏡町、宮原町、干丁村、竜北村
- ・面積：1,034Km²………全県の14.0%
- ・人口：885千人(昭35)………全県の47.7%
- ・就業人口：371千人(昭35)………全県の45.8%………1次136千人(36.7%)、2次63千人(17.1%)、3次172千人(46.2%)
- ・工業出荷額：501億円(昭35)………全県の61.7%

2. 地域の適性

- ・恵まれている工場適地：5,364ha
海面埋立 4,255ha：地先一帯は遠浅、地耐力が大
内陸部 1,109ha：広大な面積、廉価
- ・良質豊富な工業用水
菊池川、加勢川、球磨川の表流水、豊富な地下水
- ・建設が容易な大型港湾
—12m—16mの大型港湾
- ・豊富な労働力と恵まれた教育機関
毎年多くの県外就職………新規 卒学9,000人、一般就職者13,000人
- ・熊本大学(法文学、工学、理学、薬学、医学、教育学部)、熊本商大、熊本女子大、有明工専等
- ・豊かな資源・快適な環境
石炭、石灰石、砂鉄、木材、農産品の資源
阿蘇、天草、雲仙の国立公園、及びその他多くの快適な緑地公園、温泉群
- ・九州における位置的中心性：九州の開発拠点
九州域内に対する拠点開発の波及効果は広大、道路、鉄道等